

## 令和元年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人幸輪会  
若葉保育園

評価項目の達成・取組み状況・これから改善したいこと

評価項目	取組み状況
I 保育の計画性	幸輪会の理念に基づき、子どもの自立を促す保育を目標として、保育計画、指導計画を作成している。縦のつながりができる異年齢保育に向けての保育内容や環境作りに工夫をして交流が深められるように努力していった。生活と遊びの中で食文化に触れる機会を作り、体験を通して食に対する意識ができるよう保育を進めていった。
II 保育のあり方・子どもへの発達に応じた対応	子どもが自発的に活動できる環境作りに努め、保育士も園児の活動を見ながら子どもの気持ちを受け止め、個々に合わせた保育に努めた。コーナ作りがうまく進まなかった部分もあるので、次年度は職員間でアイデアを出し合いよりよい環境を作っていきたい。 異年齢保育も後半には取り入れ年長児における当番活動等を通して人に対する思いやりや手伝う優しい心が育つ保育に努めた。 年度末保育は、進級、進学に向けた内容を取り入れ、子どもたちが進級、進学に対する喜びが感じられる保育を行っていった。
III 保育者としての資質や能力、良識、適正	保育内容を年間通して進めることができたかどうか自己分析を行い、次年度の保育に反映できるようにしている。 小さくても子ども一人ひとりの人格を大切に誠実に子どもと向き合い日々の保育を大事にしていけるよう努力している。
IV 保護者への対応・支援	保護者に対する守秘義務を職員に周知し守っている。園児の送迎時に子どもの一日の様子を伝えている。また、個別相談にも対応し、園児がよりよい園生活が送れるように努めている。
V 地域や社会との関わり・地域子育て支援	園内では保育参観を行い子どもたちの様子を保護者に伝え、また、行事に関しては地域の方にも張り紙等で知らせ参加をよびかけている。一時保育事業では、地域の方の園児預かりも積極的にを行い子育て支援に参加している。また、自治協議会とも連携を取りながら地域の方とのふれあいの場に出向いたり、市の社会福祉法人主催の社会貢献プロジェクト委員として積極的に参加して地域の方との関わりを大事にしている。
VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲、態度	キャリアアップ研修に積極的に参加して、専門的知識を身に付け、保育に反映できるようにしている。また、法人全体で行う研修会や、県保育協会の研修会にも参加して、自己研鑽を行っている。園内職員会議では必ず報告会を行い、研修の知識を他の職員とも共有し、日常の保育に生かし乳幼児の育ちに反映させるように努力している。